

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		商店街（代表者）	お客様の様子	・暖冬ではあるが、2月は気温の低下した日も多く、冬物の最終処分において、客がまだ冬物を求める様子がみられた。春物に関しては、割と客の動きが早くなっている様子がみられる。
		一般小売店〔土産〕（店員）	来客数の動き	・客の様子をみると、欲しいものにはお金を惜しまないが、興味のないものなどはほとんど買わないという二極的な選択の買い方がみられる。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・大型建築工事が増加しているほか、造船業や自動車販売業が好調であり、その影響がみられるようになってきている。客の動向をみると、現場工事従事者の動きが良くなってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・来客数が減ってきているものの、販売量が前年を上回ってきている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	来客数の動き	・客は価格に対しては敏感だが、来客数及び販売数量は伸びている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・昨年の2月と比べると、今年は良くなってきている。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・本州ツアー客や海外客の動きが活発であり、宿泊単価には厳しいものがあるが、付帯収入が好調で総消費単価が上昇している。一方、地元客、道内客は伸び悩んでおり、湯治客も減少傾向にある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・2月に入って国内旅行の受注が増加している。特に添乗員付きの高単価商品が売れている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客足が増えており、すでにゴールデンウィークの受注も始まってきている。	
	観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイの輸送人員、土産物の販売額が共に前年比で15%ほど増加しているなど、回復基調にある。	
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・引き続き暖冬の影響が現れており、冬物衣料の処分品が不調である。天候に大きく影響を受けない飲食関連も前年を確保できない状態である。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月は当地の冬の大きなイベントである「小樽雪あかりの路」が開催され、50万人を超える人が見物にきた。期間中、得意先の飲食店、ホテル等では、その恩恵を受けたことから、売上が好調に推移したが、そのような特殊要因の中でのことなので、景気が良くなったとは判断できない。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・暖冬の影響で春物のコートなどの出足は良いが、必ずしも景気が上向いているとは言い難い状況にある。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・来客数が増加傾向にある。
		スーパー（役員）	単価の動き	・客単価が前年比101.5%と前年を上回っており、3か月前と比較して変化なく推移している。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・薄型テレビの販売台数が前年を超えており、引き続きよく売れている。客単価が少し低いものの、来客数は前年と変わっておらず、イベントの際の客の反応も良い。
		家電量販店（地区統括部長）	単価の動き	・販売量は前年比103.5%と微増しているが、客単価が全体で96.2%と落ち込んでおり、トータルでは前年とほぼ変わらない状況である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月前半はかなり苦戦しており、前年実績を下回っていたが、後半は巻き返しており、トータルでは変わらない状況である。
高級レストラン（スタッフ）		単価の動き	・アラカルト料理と比べてセット料理のウエイトが高くなってきており、その分、単価が下がり気味である。ランチ、ディナー共、こうした動きが顕著である。	

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・全体売上は前年を超えた。昼食は広告を出したメニューが女性客に好評であり、前年比は20%の増加となった。ただ、道内企業のサラリーマンの利用はまだ少ないままである。夕食も広告メニューの効果で新規客が増えたが、客が減っており、結果として前年並みとなった。個室は、本州の自動車企業とその関係団体、リース系企業による利用分が増収に結び付き、前年を大きく上回った。さっぽろ雪まつり期間中は、昼夜とも前年並みであったが、会場付近のホテルにあるレストランでは、悪天候の影響で、特に夕食利用が増えたと聞いている。
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ディナータイムの来客数は変わらないが、ランチタイムの来客数が3か月連続して減少している。
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・2月の売上、来客数は、昨年より10%ほど増加しているが、昨年が悪すぎたためであり、平年ベースで見ると、あまり変わらない。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・例年どおりで特に変わった様子もない。販売単価が上がっているようにもみえない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・2月はさっぽろ雪まつりなどのイベントが開催され、イベントへの来場客は増えているが、海外からの観光客が増えているためであり、タクシーの利用にはほとんど結び付いていない。また、雪の日が少なく、暖かい日が多かったことから、タクシー利用客は昨年よりも減っている。ノルディックスキー世界選手権札幌大会も開催されているが、宣伝がほとんど行われていないため、あまり盛り上がっていない。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・同業他社も前年割れのところが多く、例年にない暖冬少雪が響いているようだ。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・昨年に比べて来客数の月ごとの変動が大きくなってきているが、3か月平均で見ると前年並みの来客数となっている。
	設計事務所(職員)	販売量の動き	・札幌市内の空地での開発基本構想の件数は以前と変わらない。ファンド関連の不動産取引もピークを超えたとの観測もあり、景気動向に大きな変化はみられない。
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・客の所得水準がやや低下気味のためか、住宅ローンの借入がままならない状況にある。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・1月と比較して来客数が減少している。また客の低価格志向が強いことに加えて、春の異動シーズンを控えていることから、客の財布のひもも固く、客単価が低下している。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・暖冬の影響で季節商品の売上が低迷している。また消費者の先行き不安によるものなのか、昨年の11月頃から客の買い控えを強く感じるようになってきている。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・北海道全体での売上高は1月と比較して3.4%の増加となっている。部門別にみると、衣料品が前年比101.4%、住居用品が前年比96.4%、食品が前年比98.9%、専門店が前年比94.5%となっており、住居用品と専門店の落ち込みが目立っている。住居用品では、家電、化粧品、寝具が低迷しており、専門店では雑貨、アパレルの店舗が苦戦している。一方、食品では畜産、加工食品、そう菜が好調に推移しており、衣料品では冬物処分品と定価販売している春物の動きに支えられ、婦人衣料、インナーウェアが堅調に推移している。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・3か月前と比較して、販売量が1割弱落ち込んでおり、前年比でもやや悪くなっている。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・客の買物個数が増えない。例年であれば、積雪の影響で自宅近くの店で買物するようになるのだが、暖冬の影響で遠くの大型店で買物をする客も増えているようである。財布のひもが緩くなった気配が感じられない。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・暖冬の影響により除雪業者への経済効果がないことに加えて、漁獲高の減少により加工場の閉鎖、規模縮小などが起きており、給料日前の売上が低迷している。

	コンビニ（オーナー）	単価の動き	・客単価が低下しており、来客数も減少している。	
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・今年の北海道は暖冬であり、石油製品の値上がり感が落ち着いたようではあるが、やはり、このことが家計に響いており、商売にも影響している。	
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・年末商戦後の反動と例年どおりの2月の販売量の少なさが重なり、売上が落ちている。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・和食レストランの昼食利用客が前年比で10%程度減少しているなど、昨年8月に閉店した百貨店の影響が顕著に表れている。	
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・全国的な暖冬の影響で国内からのスキー客が減少している。海外からのスキー客は増えているが、国内客のマイナス分をカバーするまでには至っておらず、売上も悪くなっている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・毎月の客の動きが大きく上下している。2月の道内温泉への申込は動きが悪く、3月の申込も前年を大きく下回っている。4月の申込も選挙の影響が出足が悪い。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・一向に客足が増加してこない。	
	悪くなっている	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・マンション等の販売はますますだが、一戸建て住宅の受注が非常に減っている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大都市圏を中心に高額品の販売が好調である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原因は良く分からないが、物流面で荷物、カーゴの流れが多少良くなってきている。
		その他サービス業 [建設機械リース]（営業担当）	競争相手の様子	・中小業者から大手業者に受注が移行しており、大手業者が手掛けるような地方の大型工事関連の需要が増えている。
	その他サービス業 [建設機械リース]（支店長）	受注量や販売量の動き	・成約は別として、昨年の同時期よりも商談の情報量がやや増えている。	
変わらない		食料品製造業（団体役員）	競争相手の様子	・造船受注や本州資本によるホテル建設等が好調であるものの、地域企業への恩恵は少なく、雇用環境や食料品製造業には明るさが見当たらない。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・年度末を迎え、輸入雑貨はそれなりの動きをみせているが、まだ大きな動きには至っていない。ただし、関東の景気に引きずられ、鉄工・コンクリート製品、鉄骨等は順調な動きをみせている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・当社を取り巻く荷主、工場の動きに大きな変化はみられない。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金は、中小企業向けのもは乏しい。大手製造業の工場建設がみられるが、大手建設業者が元請となっており、孫請の地元建設業者は利益確保が難しい。分譲・賃貸マンション建設は用地不足もあって減少基調にある。観光関連は知床、旭山動物園効果の恩恵を受けている地域は好調である。個人消費は暖冬の影響で冬物商戦が不振である。総じて景気は横ばいのみである。
		司法書士	取引先の様子	・土地取引や建物の建築状況から、景気は依然として低調であり、上昇傾向がみられない。
		その他非製造業 [鋼材卸売]（従業員）	取引先の様子	・07年度上期の見通しに明るさが乏しく、設備投資の意欲はあるものの、実際に投資に踏み切るまでには至っていない。また金属資材、特にステンレス、非鉄の生産資材、消耗品の一部が高騰しており、収益構造を圧迫しているため、景況が上向きになる程の状態ではない。
やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・見積り時や入札時の競争が厳しく、価格の低下が従来よりも激しくなっている。特に官公需において、その傾向が強い。	
	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月は荷動きが悪く、販売の落ち込む時期であるが、特に今年は暖冬の影響で雪に関連する製品の荷動きが非常に悪くなっている。	

	悪く なっている	-	-	-
雇用 関連	良く なっている	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・ 今月から合同企業説明会及び会社説明会が本格的に スタートした。昨年度に比べて企業の採用意欲がおう 盛になっており、参加企業も増えている。売手市場に なったこともあり、人事担当者の説明も熱心で、参加 する学生も気を引き締めて多くの企業の説明を聞いて いる。
	やや良く なっている	-	-	-
	変わらない	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・ 新規求人数が増加したが、パート求人の増加による ものである。
		職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・ 1月の管内有効求人倍率は0.45倍であり、2か月連 続して前年を上回っているが、新規求人数は前年を下 回っている。
	やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 年末から需要の高かった家電量販店からの派遣需要 が減少傾向にある。春商戦に入るため、3月は増加す ることが見込まれるが、前年を上回ることはない模様 である。事務系の派遣ニーズに陰りはみられないが、 派遣を選択すること自体、企業業績が回復しているよ うにみえない。
		求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・ 前年と比べて、多くの業種で求人数が低調である。 例えば、昨年は人材不足で継続掲載の多かった運輸・ 物流業においても、今は人材ニーズがないと答える企 業が多い。コールセンター、派遣業の求人増だけが際 立っている状態である。
		職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・ 大口求人の減少もあり、新規求人数が前年比で25% 程度と大幅に減少している。
		職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・ 新規求人数が4か月連続で前年比マイナスを記録し ている。
	悪く なっている	-	-	-